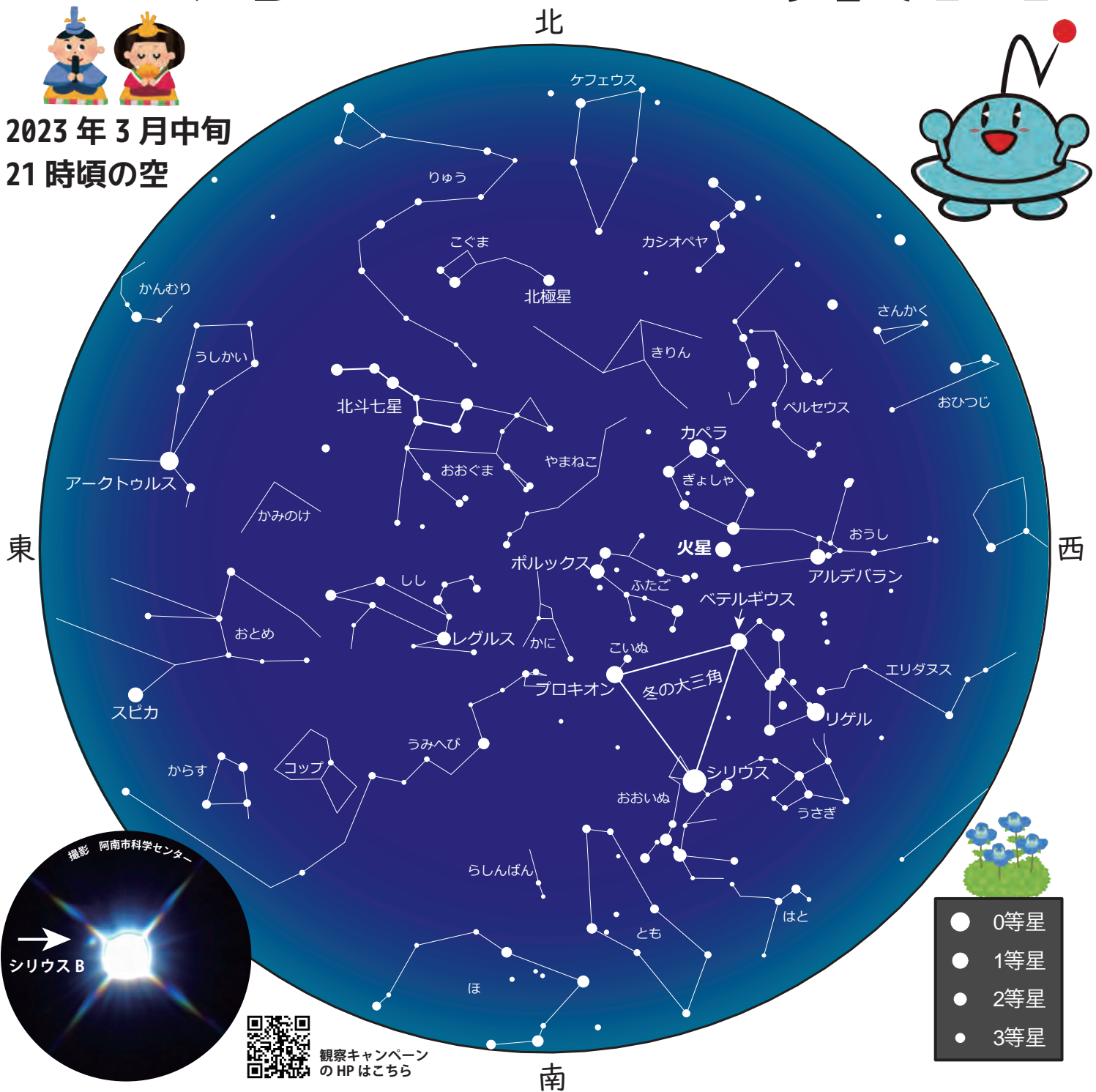


# 3月の星空案内



2023年3月中旬  
21時頃の空



観察キャンペーン  
のHPはこちら



3月に入り野山を見渡せば春の気配を感じることができます。それと同じく、夜空を見上げれば星々も春の装いに変化しています。頭上には誕生星座の一つとして有名なしし座が見つかります。この星座にはレグルスという1等星が輝き、かつては王者の運命を占う「ロイヤル・スター」の一つとして、古来より親しまれてきました。さらに、しし座の西側にはかに座という星座があります。この星座は4～5等の暗い星からなりますが、かに座の中央部を双眼鏡や望遠鏡で観察すると、プレセペ星団という若い星の集まりを見つけることができます。ところで、約50年ぶりに観察好機を迎えている「シリウス B」は、3月中も科学センターの天体観望会でご案内（観察チャレンジ）することが可能です！

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】  
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

## 3月の月の満ち欠けと惑星について



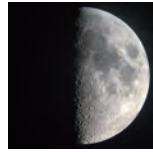
満月  
7日



下弦  
15日



新月  
22日



上弦  
29日

### 3月の天体観望会で月が見える日時は？



3/4(土)・・・19時、20時がおすすめ



3/25(土)・・・19時の回がおすすめ

水星：3月17日外合。今月の観察は難しい。

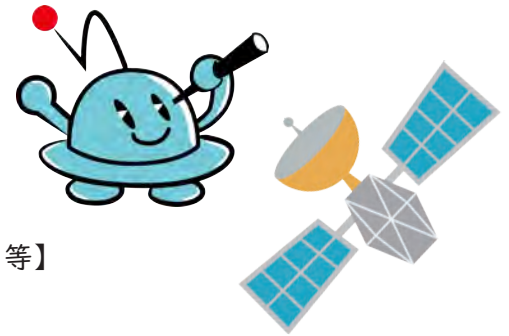
金星：日没後、西の空で観察しやすい（宵の明星）。【-4.0等】

火星：宵の口から天頂付近で見えはじめる。【約0.7等】

木星：宵の口から西の低空で見えるが、すぐに沈んでしまう。【約-2.1等】

土星：夜明け前、東のごく低空に昇ってくるが、すぐに夜が明ける。【約0.9等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。



## おすすめの観察対象

### 【春の大物銀河 M81】



図1：おおぐま座の渦巻銀河 M81。(撮影：K. Imamura)  
D=25.4cm (F6.3) + EOS kiss X7i

春は銀河が観察しやすい時期です。銀河とは自ら輝く星（恒星）の大集団で、その他にもガスやチリなどから構成される天体です。銀河の中には、鳴門の渦潮のように渦を巻いているものがあり、これを「**渦巻銀河**」と言います。図1はおおぐま座に位置するM81という渦巻銀河で、18世紀の天文学者ヨハン・ボーデ（独）によって発見されました。科学センターの大型望遠鏡で観察をすると、渦巻きの構造までは見えませんが、バルジという中央部分の淡い輝きを見ることができます。

## おもしろ天文学

### 【NGC2359 トールの兜星雲<sup>かぶと</sup>】

冬の星座おおいぬ座には「トールの兜」という愛称で親しまれている星雲があります。この愛称は北欧神話に登場する雷の神様トールが被っていた兜に由来しています。一方で、科学的にユニークなのは、星雲の中央部にある「**ウォルフ・ライエ星**」の存在です。この種の恒星は太陽の何十倍も重たく、星としての天寿をまっとうする最終段階にあります。しかも宇宙空間にガスを大量に吐き出している最中で、トールの兜はウォルフ・ライエ星を起源として形成されています。ゆくゆくは「超新星爆発」を起こし、恒星としての最期を迎えると予想されています。



図2：NGC2359 トールの兜星雲 (撮影：K. Imamura)  
D=113cm (F9.7) + STX-16803E (LRGB 合成)